

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Aユニット故郷		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	令和3年1月	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年2月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行っています。入居者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと安らげ、安心した生活が維持できる。地域に密着した「家」作りを目指しています。また、介護職員へも、要望があれば研修や勉強会への参加も事業所よりスキルアップの為参加を支援している。利用者様への病気や怪我に対しても、併設の医院より、24時間体制で医師や看護師の対応が可能であり、利用者様、御家族様にも安心感を得られ、隣接する鉄筋3階建ての有床診療所があり、井戸水もあるなど災害時の避難場所として、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「軒の「家」として入居者が笑顔を絶やさず生活できる環境や、地域と交流する機会を提供しながら、在宅生活の延長としての理念がしっかりと定着している。新たな入居者には新人研修でホームの思いを伝え、家族や地域へ向けて便りや運営推進会議で情報発信に努めている。前回の外部評価後には、事故やヒヤリハット、身体拘束などの報告により透明性を図り、プランについては情報収集や定期的な見直しなど改善に向けた取組に着手している。また、働き方改革にも力を入れており、有給休暇や資格取得への支援、法人による健康診断や心身の健全育成などにも力を入れている。法人医師も機会あるごとにホームを訪れ入居者や職員へも心を配り、安心して過ごせる環境整備に努めており、家族の安心や信頼となっている。運営推進会議は当初から入居者参加型の会議として周知され、ホーム運営の一端を担うことで自信にもつながっており、変わらぬ取組が継続されることが期待される。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し、地域に密着しゆとりと笑顔のこぼれるホーム作り「家」を目指すことを掲げケアの統一を図って理念を大切にしている。また、毎日の申し送り時に、理念の唱和を行い、理念の意義を毎日再確認してもらうよう努めている。	開設時より地域に密着し、入居者の安心と尊厳のある生活を守り、一つの「家」としての役割を担うとする内容を掲げている。月目標の設定により理念をより具体的なものとし、日々の支援のバイブルとして各ユニットでケアにあたり、振り返りの機会をもっている。	理念をホーム紙(おかもと便り)に掲載したり、運営推進会議で唱和するなど家族や地域へ向け啓発に努めており、継続した取組が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントのお知らせや声掛けで参加を得、近隣の教育、学校の職場体験の受け入れ、又、ボランティアで当施設の行事に参加、手伝いを協力等していただいたり様々な交流を行っている。	コロナ感染症の拡大により殆どの行事が中止となったものの、ホームとしてできる地域交流に努力している。地域貢献の一つとして例年行われていた実習生の受け入れを縮小しながら実現し、安全対策をしたうえで入居者との交流を図っている。また、エリアを確保してミカン狩りや紅葉見学など地域へ出る機会を企画し、パンの移動販売や夕方の敷地内散歩は入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行い介護現場を見学したり補助をしてもらうことにより、直に触れ合ってもらっている。又、入居見学や受付時に当施設の利用有無に関わらず相談やアドバイスを出来る限り行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で近況報告や意見要望を聞き、質疑応答を行なって日常の中で改善すべき事項を提示し、次回の推進会議には、取り組み状況や解決の報告を行い、サービス向上に反映させている。入居者様やご家族様にも参加していただき、そこでいただいたご意見やご要望をケアに取り入れている。又、特別な理由により開催出来ない場合は、書面にて会議内容を作成し、参加者全員へ郵送し、意見があれば次回開催時に返答を行っている。	昨年4月からは感染症による社会的状況を考慮し、資料配布などによる書面審議としている。前回の外部評価後にはヒヤリハットや事故報告、身体拘束廃止検討会議の内容報告を詳細に発信しており、さらなる透明性が図られている。また、通常開催の際には、個人情報資料を回収するなどの対策が講じられている。	コロナ禍以前には入居者がホームの一員として運営推進会議に同席しており、参加者との地域交流の一つでもあったことから、早い終息が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や認定調査の機会に市町村担当者へ入居者様の暮らしぶり等も伝達し連携を深めている。また、制度変更や運営基準等不明箇所は電話や来訪にて確認を行わせて頂いている。	現在、運営推進会議の資料にてホームの現状を伝えており、行政からの返答として事故が発生した場合の報告の必要性や、面会手段についての質問、外出の機会があったことについてはホームの取組を後押しする内容が寄せられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を良く理解し、外出の傾向や心情を察知し、その場に応じた適切な対応や、さりげない声掛けや傾聴、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。又状況に応じて戸外散歩やスタッフ同伴のドライブや買い物も行う様にしている。日常的な身体拘束に関しては、「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、年に4回「身体拘束及び虐待廃止検討会議」も開催し、参加メンバーにより検討された内容は不参加の職員にも周知を行っている。また、毎月の定例会でも年2回は内部研修を行っており、日々のケアでも職員同士が声を掛け合い、防止に努めている。又、やむ負えなく行う場合においても、身体拘束の三原則を理解厳守し、それに基づき、御家族様に報告説明と承諾書の提出を義務づけている。	年4回開催する身体拘束廃止検討委員会で、入居者の現状把握と評価を行っている。入居者の状態によって今後予測される安全対策を講じるにあたり、守るべき三大原則について話し合い、「指針」の変更はなかったものの内容の見直しを行っている。	管理者は入居者への危険回避や繰り返し言動などにどうしても口調が強くなる場合があるとして、研修で意思統一を図り、なお一層の心構えが必要としている。継続して取り組まれることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回開催している「身体拘束及び虐待廃止検討会議」にて委員メンバーにより現場の現状把握や対処法等を話し合い、日々のケアに活かしている。また、毎月の定例会の中でも勉強会やアンケートを用い、職員に理解を得てもらっている。職員間でも情報を共有し、日々のケアの中や、日常の会話の中でも発見次第、お互い注意を促すよう教育している。又、利用者様の状態や周辺病状等をご家族様に報告する際も、認知症についての説明やケアの実践方法を会話に取り入れ、自宅に帰られた時も虐待が起こらないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市職員からの説明や資料等を元に、理解を深め、日々の利用者様への権利擁護に活かしている。又、何に対して権利を有するのかも考えながら日々のケアを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様に合わせ、時間や内容を解りやすく簡潔に説明し、その後疑問点を尋ね理解納得を得ている。後日でも不明点等問われた時は、追加説明も行なっている。重要事項説明書・運営規定も、玄関に飾りいつでも閲覧できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や態度から思いを察知し、努力しケアに活かしている。又推進会議や家族会・訪問時や電話でも問いかけ、何でも言える雰囲気作りを留意し、ミーティングやノート活用で反映している。玄関にも意見箱を匿名で記入出来るよう設置している。	通常の面会や家族会、運営推進会議などの中止により家族との接点が少なくなっていることから、電話やホームだよりでの情報発信に努めている。また、家族アンケートでも意見や意向を確認している。ユニット間の交流も自粛せざるを得ない状況であり、職員は入居者の声に耳を傾け、方言を交えながら会話することで言葉を引き出すように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より代表者、職員の間に入り、職員の意見や不満を受け入れてバランスを取っている、又申し送り時に意見要望や提案等を出されたらコミュニケーションを図り、問いかけたり聞いたり、又家族アンケートに出された意見要望に対してもケアの活用の一環として取組んでいる。	職員が普段から意見を出しやすい環境であり、朝の申し送りや会議で業務改善やケアの質の向上に向けた話し合いの場が確立している。ホームの身体拘束廃止検討委員会には法人医療機関のグループホーム担当看護師も同席しており、情報を共有して入居者の日々の生活を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援をし、活かせる業務環境作りに努めている、職員の定期健診も行き、心身の健全育成に努めている。管理者自身にも指導教育を行い、職員に過度な勤務体制にならぬよう指導し、環境整備を行っている。代表者に対しても、職員の意見や不平・不満を伝え今ある実態の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、時代に合わせたオンラインの外部研修にも参加したり、職員のレベルに応じた研修を受講出来るよう促している。又報告等は定例会で発表している。新人研修は一定期間マンツーマン体制をとり指導実地している。又、問題がある職員に対しては個人面談も行き、より良いケアを行う様に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度グループホーム連絡協議会玉名郡市支部会の研修事例発表を通じ、意見や経験をケアに活かしている。又他ホームとのイベントお知らせがあれば交流も行きサービスの向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談以前に既往歴や生活歴等を把握しておき面談時に出来るだけ理解対応出来る体制をとれるように準備しておく、又面談時には本人の今の気持ちや意見を聞き入れ、受け入れの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めているものを理解し、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。傾聴し状況等を把握し、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時や面接時などでの、会話の中で気付いた事や、必要な事に相談を持ちかけている。又、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来ることを見極め、手伝いや協働を求め共同生活への意欲を高めつつ感謝の気持ちも伝え施設内での役割や立場を確立していただけるように工夫している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や職員の思いを伝達することにより、ご家族様と職員の思いが重なり協力関係が築けることが多くなっている。又、認知症状について説明する事で、家族様にも理解を深めてもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいた友人や知人の方を忘れられていても、職員が間に入り再来訪してもらえるよう関係作りをしている。又、認知症が進行している方には回想法を使い日常会話に取り入れたり手紙や写真を見せる等の工夫をして関係が途絶えない様になっている。	職員は入居者のこれまでの人生に焦点をあて、1対1の会話時には若かりし頃の仕事ぶりを称えたり、馴染みの言葉や表現から笑顔を引き出すよう努力している。入居者の中には編み物や刺繍などこれまでの趣味を継続したり、洗濯物をたたむ際他者に名前がわかるように折りたたまれるなど入居者の心づかいも大切にしたいとしている。また、コロナ終息後の家族の協力による外出や帰省などが期待される。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を傾聴したり、相談に乗ったり、楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りになる様に働き掛けをしている。又、時には職員が間に入り関係作りに貢献している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ転所される場合、支援状況を手渡しして、情報提供等交換を行い、行事への声掛けや継続的な付き合いが出来る様心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし希望、意向の把握に努め、ご家族様や関係者からも情報を得て、ケアにあたり、又ご本人本位になる様に支援している。	自らの要望を口にされる方は少ないようであり、職員は日々の生活の中に時間を見つけては入居者に寄り添い選択肢を投げながら、思いを引き出している。現在、家族の面会は玄関ホールとし、面会のきっかけでもあった利用料の持参も、引き落としとなるなど対面の機会が少なくなっており、職員は電話で入居者の気持ちを代弁してもらながらプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との語らいの中で、「開かれた質問」を用い、会話の中で把握に努めている。又、ご家族様や知人の来所時にも新しい情報等がないか聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、行動、動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。モニタリングした心身状態も申し送りや専用ノートを利用し職員で共有し、アセスメントも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の気持ちや意見を元に、日々の関わりの中での職員の観察、気づき、思い等の意見・アイデアも反映させ、現状に応じた介護計画が作成されている。	カーデックスにユニット分の個別プランを管理している。職員を入居者の担当制としており、カンファレンスや朝の申し送りで個々の状態を共有して必要な支援をプランに繋いでいる。入居間もない方には暫定プランで応じ、前事業所からの情報をもとに、本人・家族の意向を聞き取り立案している。基本的に半年を目途に見なおし、職員の気づきや意見が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックス、職員の担当利用者様のレポート、申し送りノート等を用い、状況把握とケア記録、情報を共有しながら介護計画の見直しに活用している。又、介護計画を活用し、実践にも活かしている。毎月職員に利用者様の担当制として位置づけ、定例会発表のレポートに気づきや工夫を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず第一にご本人様や御家族様の気持ち、要望に添えるよう考え臨機応変に対応している。又状況に応じて、外出や病院送迎支援にも柔軟に対応している。利用者様の個人的な買い物にも出来るだけ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせる様、各機関と協力しながら支援している。定期的に来られる訪問販売のパン屋等でもおやつにと利用者様自ら商品を選ばれ、金銭のやり取り等も行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や隣接の母体医院等、ご希望の医療機関となっている。専門的な治療を要する際は主治医より紹介状を頂き専門医受診支援も行っている。	希望するかかりつけ医を支援することとしているが、もともと母体医療機関をかかりつけ医とされていた方も多く継続して受診されている。歯科については必要に応じて訪問診療を、専門医については、基本的に家族対応とし結果を共有している。母体医療機関は隣接しており、主治医との連携、細やかな対応は本人・家族の信頼につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者の健康管理や状況変化に応じた支援を行なっている。相談助言と対応も行なっている。医療機関との連携の支援も行っている。緊急時や急変時は母体の医院と24時間体制で対応できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ご本人様の支援方法に関する情報提供をし、見舞い時に医師、看護師ご家族様と話す機会を持ち、またケアカンファレンスにも出席し対応可能な状態で、なるべく早く退院可能になるアプローチをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の気持ちを大切にしつつ、ご家族様と話し合い、終末期を安心して過ごしていける様に取り組む努力を行なっている。事前アンケートを取り情報を得、希望に沿うよう、ご希望があれば看取りをホームで迎え、終末期を支援する意向である。又、終末期に向けアンケートでの意向も変わってくるものと思われるので、適宜考えや意向の変更も行っている。	本人・家族の意向を大切に、必要な話し合いを重ねながら安心して過ごしてもらえるよう取り組んでいる。緊急時対応のアンケートや延命処置については、早い段階で書面で確認を行っている。ギリギリまでホームで支援し、隣接する母体医療機関での対応となることが大半であるが、主治医との連携を図りながらこの2年間で2例の看取りをホームで支援している。	入居者・家族が安心して過ごせるよう日頃の関わりを大切に支援している。ホームでの最終やギリギリまで支援した際には、今後振り返りの機会を持つ事も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接医院への応援を依頼している。又、AEDや人体模型を使用した救命救急(心配蘇生法)の研修参加を職員に促し、研修後は実技指導を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て、避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等、訓練し全職員が出来る様に実施している。地域住民参加の協力も得、防災体制を築いている。又、避難用具、非常用食料、水も常備している。	今年度はコロナ禍にあり夜間対応を基本とし、新人職員を中心に9月と2月机上訓練を実施している。災害備蓄はリストを作成し、職員への周知も図られている。安全点検はチェック項目に沿って月2回実施している。	昨今の自然災害は予想できないものであり、今後も火災訓練と合わせて地震や風水害などについても机上を含めた訓練などへの取組に期待したい。また、安全チェックなど日頃の取組を家族へ伝える事で安心に繋がると思われる。チェックの項目内容については、定期的な見直しが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、ご本人様の気持を大切に考え、さりげないケアに心掛け、自己決定し易い言葉掛けを行いプライバシーの確保や尊厳を守る様支援している。	職員による誘導や都合ではなく、入居者自身が判断しやすい言葉かけに努めている。呼称は基本的に苗字にさん付けで対応し、方言を交えながらも馴れ合いにならないよう注意を払っている。身だしなみやおしゃれにも個々の希望や職員のサポートに努めており、以前は定期的な訪問理容が行われていたが、現在、コロナ感染症への対応から控えられており、入居者も心待ちにされているようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは職員から提案はせず、自己決定を促し言い表せない方には、職員側で決定した事を押し付けず、思い、希望、関心、嗜好を見極め、選択肢を提案し自分で決める場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮し又日々の暮らしの中で、その人それぞれの個性を掴み、本人のペースに応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご本人様の意向で決定、職員は見守り、支援が必要時、手伝いをしているが自己決定困難な方は職員と一緒に考え支援している。その人らしさを保てるよう手伝いを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく全員一緒に食事が出来る様にし、個々に合った食べ方の工夫や食材の大きさ等にも工夫している。同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材をメニューに取り入れ食してもらったり、希望に沿うよう作り、一緒に準備、後片付けを行い家庭的な雰囲気作りをしている。又、時代に応じたファストフード等の食事の時折取り入れている。	献立は季節と肉・魚のバランスを考慮して職員が立てており、肉・魚・製茶は、地域の専門店から納入されている。正月やひな祭りをはじめとした行事食や職員の出身地料理(チャンプル・シリシリ)、ファーストフード(ハンバーガー・回転ずしなど)も好評だったようである。一昨年には家族の参加も得て、バーベキューが実現している。入居者は下膳や味の評価など出来る事で食への関わりを持っている。現在、職員はコロナ感染症対策として、入居者の食事介助や見守りの後食事を摂っている。	入居者にとって職員の手作りによる食事提供は楽しみと思われる。今後も地域専門店の食材を活用しながら継続した支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な確保の時間を設定し、全員が談話の場としても活用出来る様工夫している。又、チェック表に記録し情報を共有、バランスの摂れた食事と量、飲み水による脱水防止にも努め支援している。又、個人としても健康管理、病気上での禁上物や量なども医師の指示を受け管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや、就寝前の義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し、個人別のチェック表を作り、磨き忘れなどがないよう支援している。口腔内の状態に応じ、歯科往診等も取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の要する利用者様にはモニタリングを行い、排泄サインやタイミングを把握し、トイレへの声掛けやケアを行い、トイレでの排泄を支援している。又トイレ介助を要する場合も出来る範囲内での残存機能を活かしたケアを行っている。	殆どの方がリハビリパンツに尿取りを併用され、日中は基本的に残存機能を活かしたトイレでの排泄を支援している。各ユニットで排泄チェック表、トイレ時間早見表により失敗のない排泄支援に努めている。自立の継続や支援の必要性など、個別支援への取組が聞き取りからも確認された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を考慮して水分摂取量、食材の工夫(繊維質の多い食材等)、乳製品を取り入れたり、身体を動かす(体操・レク・戸外散歩)機会を設け、工夫し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に応じた入浴を行い満足感を得られている。入浴前には声掛けを行い、個々に合わせた温度、出来る限り入浴順や入浴日を決めている。拒否などがある方に対しては、職員間で対応方法を共有し、気分よく入浴して頂けるよう支援している。行事に合わせた菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいただける様取り組んでいる。	その日の体調や「最後のぬるめの湯に入りたい」「湯船よりシャワーの方がいい」など、入居者の希望に応じながら、基本的に週3回の入浴を支援している。シャンプー類はホームで備えているが、中には使い慣れた物など、個人で準備される方もおられる。浴室や脱衣場は日々の掃除と安全面からも室温管理を徹底している。季節湯(菖蒲・柚子)の支援も継続しており、全員が楽しめるよう2日間実施してる。	管理者はゆっくり湯舟に浸かってもらうことや、マンツーマンの支援であり、ホール内などでは聞けない「ここだけの話」の時間を大切にしたいとしている。継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	考慮して休憩を取り入れる様支援もしており、就寝前、温かな飲み物を夕食後1～2時間経ってお出して、飲みながらゆっくりテレビを見たり、おしゃべりをしたりして支援している。消灯時間になり居室に戻られてからも、個々のペースで入床準備や片付けをされているので、その様な時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を基本情報としてとっており、内容把握が出来る様にし、1週間分の薬カレンダーを用い更に与薬時には職員で間違いがないようダブルチェックも行っている。服薬服用確認と変更時に状態変化にも気をつけ、医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ、洗濯物たたみ、食器拭き等、得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう依頼し、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に応じ、毎朝、日中の戸外散歩の声かけや支援を行い、引きこもりや筋力低下防止に努めている。又個別にお買物支援やご家族様の協力を得、外出の機会や、行事の時に協力を得ている。	コロナ禍により以前のような外出は行えていないが、時間帯などの対策を講じ、ドライブを楽しみながらミカン狩りが実現できている。また、敷地内の散歩については、可能な限り支援している。外出を控えなければいけない現状であり、職員はホーム内で気分転換や職員と入居者同士で楽しめる行事などに力を入れている。コロナの早い終息が待たれる。	コロナ終息後はパンの訪問販売利用や、地域への花見、買い物、面会時の家族との散歩などに変わらず取り組まれることを期待したい。また、身近な散歩や日光浴など外出気分を味わえる取組についても、家族へ伝える事で安心に繋がると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物時にご自分のでなくとも、支払いをして頂く事で、お金の大切さを忘れない様に支援している。加齢と共に物忘れも目立ち、ご家族様やご本人様と相談上、個々の希望に応じて所持して頂いたり、事務所保管で個々の金銭出納帳に記入し領収書を添付して、毎月写しをお渡ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	早朝や夜間等は重要な事以外は控えてもらうようにしているが、その他はある程度希望に応じられる様に電話や手紙のやりとりも自由に出来る様支援している。また、状態報告時等を電話で行う際も、少しでも会話して頂くように促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に、入居者様の作品や自室入り口に目印をつけたり、月ごとのカレンダー作成を共に取り組み、飾り付けをして季節感を意識的に取り入れる工夫や、玄関に季節ごとの花を生けている。又、ご家族様の意見を取り入れ廊下に温湿度計も設置しており常に把握出来る様にしている。	双方のユニットで入居者と職員で作成した月のカレンダーをはじめ、飾りつけなどを施しながら季節感のある共用空間を作っている。コロナ感染症対策として、法人医師の指導を受けながら、これまで以上に掃除や換気、手指消毒の徹底に努めている。笑顔で生き生きと業務にあたる職員の姿は、入居者や家族をはじめ、来訪者にとっても何よりの居心地の良さにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでもソファーに座りテレビ・ビデオ・CDを設置し、家庭的な雰囲気作りに工夫をしている。又、職員が利用者様の間に入り、会話や交友関係の懸け橋になって頂けるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。必要と思われる物品も本人とご家族様に提案し本人の好みの物をご家族様に購入して頂くようにしている。又新たな楽しみを引き出せる様な工夫も行っている。	本人にとって馴染みや使い慣れた物品の持ち込みを依頼している。以前より家具などの持ち込みは少なくなっており、収納はプラスチックケースを用意される方が多い現状である。家族や思い出の写真は心の拠り所となっており、刺繍などの作品はこれまでの趣味や特技が窺える品である。現在は家族の面会も控える現状であり、衣類の管理を含め職員が中心に行っており、不足の品などを連絡している。	家族の面会が出来ない事から不安や心配を少しでも和らげる事が出来るよう、引き続き居室の様子など小まめな連絡が望まれる。また、居室前の表札は、個々の家として入居者本人や家族に書いてもらう等も良いと思われる。今後も職員のアイデアや一工夫をよって、居心地のよい居室作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内印を壁に貼ったり居室入口のドアにそれぞれ表札を貼り、迷われない様な工夫をしている。廊下にも不必要な物は置かないようにし、危険防止にも配慮している。自室にも今まで事故等を考慮し、手すりを取り付けたり、職員でアイデアを出し合い工夫を施すようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Bユニット松		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	令和3年1月	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特別非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3-13-12-205
訪問調査日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者皆様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行なっています。入居者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと安らげ、安心した生活が維持できる、地域に密着した「家」作りを目指しています。急変時や怪我等に対し併設する医院より24時間体制で医師や看護師の対応してます。隣接する鉄筋3階建ての有床診療所があり、井戸水もあるなど災害時の避難場所として、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639	
法人名	医療法人 誠真会	
事業所名	グループホーム おかもと Bユニット松	
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5	
自己評価作成日	令和3年1月	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特別非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3-13-12-205
訪問調査日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者皆様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行なっています。入居者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと安らげ、安心した生活が維持できる、地域に密着した「家」作りを目指しています。急変時や怪我等に対し併設する医院より24時間体制で医師や看護師の対応してます。隣接する鉄筋3階建ての有床診療所があり、井戸水もあるなど災害時の避難場所おして、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人を大切に安心して尊厳のある生活を守り地域に密着し入居者様にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指すことを理念として、定例会議時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の花見、餅つき等のイベントは、コロナウイルス感染症拡大に伴い開催できない状況ではありますが、近郊の学校の職場体験・教育実習は感染対策の元に受け入れしています。イベントが開催の時はボランティアで参加し手伝い・協力等をしていただいで交流されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のひとつとして実習生・地域の専門学校や中学生及び高校生の職場体験の受け入れを行い利用者様との触れ合ってもらって、意見等を聞き入れアドバイスを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で近況報告や意見要望を聞き質疑応答を行なって改善すべき事項を提示次の推進会議にて状況報告や解決の報告を行い、サービス向上に反映させている。行政や包括支援センター・区長様・老人会長・ご家族様・入居者様にも参加していただき意見や要望をケアに取り入れている。現在は、コロナウイルス感染症拡大防止の為に書面にて会議内容を作成し参加者全員へ郵送し、意見等あれば次回開催時に入居者様の状況や意見に対する回答を含め報告しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や認定調査の機会に市町村担当者へ入居者様の暮らしぶり等も伝達し連携を深めている。制度変更や運営基準等の不明箇所は電話や来訪にて確認を行わせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を良く理解し、入居者様の行動や心情を察知し、それに応じた適切な対応を行っている。毎月の定例会にて年2回は内部研修を行っている。身体拘束に関しては「身体拘束廃止に関する指針」を作成し年4回「身体拘束及び虐待廃止検討会議」も開催し参加メンバーと検討された議案は職員へ周知している。やむ負えない場合はご家族に報告説明と承諾書の提出を義務づけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回開催している「身体拘束及び虐待防止検討会議」にて委員メンバーにより現場の現状や対処法等を話し合い、日々のケアに活かしている。また、毎月の定例会の中で勉強会やアンケートを用い、職員へ理解を得て情報を共有しケアの中で発見した際は、お互い注意を促し指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や外部からの資料や研修等へ参加して理解を深める様にしている。権利擁護を活かし入居者様に合ったケアを行っていくようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族・利用者様の都合を調整して契約締結の際の重要事項等の説明をして、承諾を得ている。何か不明点等あれば、その都度、対応して説明を行っている。重要事項説明書・運営規定は玄関に開示して観覧できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの不安・意見・苦情等は些細な事でも聞き、その言葉や態度から思いを察する努力をし、各ユニットで改善点を話し合い日々のケアや運営に反映させている。ご家族様のご意見、ご要望については面会時や年1回開催している家族会で自由に発言を行なって貰うように働きかけている。又出された意見についてはミーティングで話し合い、それを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や不満を受け入れ、状況に合わせて代表者(理事)等へ報告し改善を行っている。家族等の意見があった時は、内容を活かしてケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援を行いそれが活かせる業務環境がとられている。職員の定期健診も行き、心身の健全育成に努めている。管理者自身にも指導教育を行い職員に過重労働にならないよう勤務バランスを取って指導・環境整備を行っている。代表者に対し職員の意見を伝え現状の報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・学習会の情報を収集し職員のレベルに合わせた研修へ受講させたり受講を促している。その後の定例会議でレポート報告をしている。新人研修はマンツーマン指導にて進捗に合わせて期間を決め行っている。何か悩みや問題があった時は、個別にて面談行い指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、グループホーム連絡協議会玉名郡市支部会の研修事例発表を通じ意見や経験をケアに活かしている。他ホームとのイベントお知らせあれば交流も行いサービス向上を図っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、ご本人・ご家族様の不安や求めている事を尋ね、入居者様の問題点をご本人の立場で受け止められるよう努め信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでご家族様がどのような苦勞があり、どのようなサービスを利用してきたのか、現在に至るまでの経緯について話し合い、相談相手として信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族様の思いや状況等を確認して、現在必要とされている支援について他事業所サービスも含め説明紹介出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様を敬う気持ちを全職員が持ち、生活の知恵や文化、作法等について教わる機会もあり、食後の団欒等話し合い場面の設定に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いや困りごと等の話し合いをする機会を日常的に持つ様にして、悩みや問題を共有し、共に協力しながらご本人様を支える事が出来る様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいた友人や知人の方を忘れていても職員が間に入り再来訪してもらえるように関係作りをしている。認知症が進行しているかたには、日常会話・手紙・写真等を使用し関係が途絶えないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の話を傾聴したり相談に乗ったり、入居者様同士で楽しく過ごす時間を作り関係が悪くならない様、職員が介入し調整役となり、食卓の配置にも気を配り、皆で楽しく過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ転所される場合アセスメント、ケアプランや支援状況等を提供し情報交換を行っている。サービス終了後も行事等の案内を送付している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし希望、意向の把握に努め、ご家族様と関係者からも情報を得てケアにあたり、又、本人様の希望に添う様に支援している。		
24		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との語らいの中で「開かれた質問」を用いたり、これまでの経緯の会話の中で把握に努めている。ご家族や知人の来所時に追加情報がないか聞き取りする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人の生活のリズムを理解すると共に日々変化する状況を記載し重要な所は申し送りを行い職員で共有しアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様とご家族様の意見を元に、職員の意見を反映させ介護計画を作成し、又作成後はご家族様に説明し同意を得ている。定期的にモニタリングを行い介護の可能性について議論し計画の改善に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況チェック表・経過記録・申し送りノート等を用い状況把握と共に情報を共有しながら介護計画の見直しに活用している。担当職員を決め毎月、レポートを書いてもらい定例会にて発表している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況やご本人様の状態に応じて必要な受診がある場合は、協力医療機関の受診を行っている。又、基本的には受診の際はご家族様と同行をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心に暮らせるよう、各機関と協力しながら支援をしている。推進会議時に入居者様の状況や生活を知っていただき、安心した暮らしができるように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や隣接の母体医院等、ご希望の医療機関になっている。専門的な治療が必要な時はご家族と相談の上、主治医より紹介状を頂き専門医へ受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医院の看護師と連携を図り、入居者様の健康管理に努め、異常時には速やかに適切な受診を受けられる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族・ご本人・医師・看護師より支援方法に関する情報提供をし安心して治療が出来る様に早期退院、出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の気持ちを大切にしつつ、ご家族様と話し合い、終末期を安心して過ごしていける様に取り組む努力を行っている。事前にアンケートを取り情報を得て希望に添うよう、ご希望あれば見取りをホームで迎え、終末期に向けアンケートの意向も変わってくると思われるので、適宜意向の変更も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかに隣接の医院へ連絡して直ちに医師・看護師の処置が行なわれている。又、AEDや人体模型を使用した救命救急(心肺蘇生法)の研修参加を職員に促し、研修後は実技指導を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て、年2回火災避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等訓練し、全職員が災害時に対応出来る様に努め、訓練には近隣住民の協力と参加も得ている。避難用具・非常用食料・水等も常備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の声掛け誘導等、プライバシーや尊厳を守る接し方に配慮して行なう様心掛けている。入室時には必ずノックし、又自室に不在の際はご本人様に了解を得て入室する様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせて声掛けや対応の仕方を工夫し、ご本人様に説明し納得した上での自己決定をしていただける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし	その日の体調や気持ちに配慮しながら、一人一		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人の一日の過ごし方に出来るだけ添える様、食事時間や起床、就寝時間は各々のペースに合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の協力を得て、ご本人様の希望に合った髪型が出来る様、訪問美容師にお願いしている。洋服は基本的にはご本人様が選んで、着用していただいている。自分で出来ない方は介助が必要な時は手伝う様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたい物を聞き、バランスの摂れたメニュー作りをしている。入居者様が同じテーブルに座り、同じ物を食べ楽しく食時が出来る様に配慮している。時折、季節に応じたメニューも取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況チェック表を活用し、毎食の摂取状況を記録し、職員皆で確認出来るようにしている。食欲減退時は医師・看護師に相談し、指示をもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、個々の能力に応じて見守りし介助を行なっている。又、就寝前の義歯ポリドント洗浄を行なっている。夜間は義歯を必ずはずしている。義歯の状態や口腔内の状態に応じて、体力的年齢的に歯科受診が困難な方には、歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄パターンを職員全員が把握し時折、本人の訴え時や声掛けをしてトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物繊維が多く含まれる食品や乳製品を献立に取り入れている。体調を考慮しながら軽体操で体を動かしていただき、便秘予防に努めている。排便コントロールが必要な方は医師の指示を受け投薬することもあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の体調に応じた入浴を行い、入浴前には声掛けを行い個々に合わせた温度調整を行っている。拒否等が見られた時は職員間で対応を考え支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や活動量を考えて、ゆっくりと休息が取れる様に食事の時間やお茶の時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を基本情報としてファイルしており内容把握が出来るように1週間分の薬カレンダーを用い更に与薬時は職員で間違いのないようダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事、好きな事に合わせて洗濯物たたみや食器拭き等の家事を中心としたお手伝いをお願いしている。又、始めと終わりには感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添った散歩の付き添いを行なっている。買い物や外出や行事時ははご家族の協力を得ている。しかし、コロナウイルス感染拡大の為、今は出来てない為、ホーム内での生活が中心とする。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、基本的には事務所保管で個々の金銭出納帳に領収書を添付し、毎月写しをお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	早朝や夜間等は重要な事以外は控えてもらうようにしているが、その他は出来るだけ希望に添える世に電話や手紙のやり取りも自由に出来るように支援している。携帯電話をお持ちの方は気楽に使っていただく様に配慮も心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビの音量には気を配り心地よい音量で聴けるよう配慮している。又、月ごとのカレンダー作りの飾りつけ、季節を感じられるような素材を飾り工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでもソファーに座りテレビ・CD・歌詞カード等を設置し家庭的な雰囲気作りに工夫をしている。時折、職員が入居者様の間に座り会話や交友の懸け橋になっていただけるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様にご本人様と話し合い、家具や身の回り物等、使い慣れた物を出来るだけ多く持って来ていただくようにしている。居室には個々によって、仏壇・テレビ・ご家族様の写真や昔の写真等を置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室への案内印をドアに貼ったり居室入口のドアにそれぞれの表札を張り、迷われない様に工夫をしている。廊下にも不必要な物は置かないようにし危険防止と共に動線の確保に努めている。フロアのコンクリート柱には転倒時のケガ防止の為、ゴムカバーを付けている。		